

岩手県野田村の支援活動報告（2011年8月31日）

8月の最後の活動となったこの日は、学生14名、教員1名、市民19名の計34名（うち男性18名、女性16名）と平日にも関わらず、参加者が多く、また初参加者が10名で、活動初めから5カ月が過ぎていても初参加者が途切れることなく参加してくださっていることがとっても嬉しかった。

車内では、事務局の紹介の後、初参加者のための今までの経緯と活動内容に関する紹介、オリエンテーションと「幸せ運べるように」の合唱を行った。到着時間がいつもと同様、9時ちょうどだった。

野田村の災害復興ボランティアセンターに仕事の内容を確認しに行ったら、平日であることもあって少し閑散としていた。当日ボランティアを受付したのは我々以外に個人と団体を合わせて15名のみであるという。随分ボランティアが少なくなったものだ。また、今までならホワイトボードいっぱいには張られていた住民からのニーズ票もこの日は3枚だけで、大きく様子が変わったなど改めて感じた。

指示されたこの日の作業内容は、「個人宅の草むしり」、「個人宅の瓦礫撤去」、「写真の整理作業」だった。また、前日にチーム北リアスの渥美先生から頼まれた「チーム北リアス」の現地事務所の整備作業も頼まれていた。5人のグループが2班と6人グループ、そして残り全員の4つのグループに分かれて作業に当たった。しかし、個人宅の瓦礫撤去を頼まれた5人グループの班は、作業を頼んだ方が不在で作業ができず、結局18人のグループと交流し、「個人宅の草むしり」に当たった。



道の駅おおのでの集合写真



チーム北リアスの現地事務所の整備作業



かまどのつきやさんでのお昼



みんなで後片付け

私は、午前中は野田中学校の仮説住宅から少し離れたチーム北リアスの現地事務所の整備に当たった。メールの添付ファイルの写真で見てはいたが、実際の現地事務所は想像していたものより立派だったことに驚いた。最初の仕事は、敷地を提供してくださった貫牛さんの倉庫に仮おきにしていた備品を整理する作業だった。足湯や炊き出しに必要な備品をそれぞれ分別して、現地事務所の事務棚？に並べた。その後は、現地事務所の基礎を固める作業だった。

仙人のような貫牛さんのお母さんの話では、土止めが不十分で、このままでは雨で基礎となっている土が流れ、現地事務所が傾くという。貫牛さんのお母さんがお一人で作ってくださった土止めと基礎の間に土を盛って、その上にカバーをかけてほしいということだった。お婆さん一人でやったとはどう見ても思えない土止めの頑丈さに一同言葉を失った。隣の駐車場から土を運び、少しずつ土を盛って、お婆さんが準備してくださったカバーを被せた。これで雨が降っても安心して寝られるとおっしゃるお婆さんの一言が嬉しかった。

お昼はおなじみの「かまどのつきや」でいただいた。お弁当と一緒に、個人的に楽しみにしているのはトマトとお餅だが、この日はトマトもお餅も見当たらず、少し落ち込んでいた。しかし、ボールに山盛り出てきたキュウリとカチコチのトマトアイスは大味だったが、なかなかの美味だった。

午後は、野田村の災害復興ボランティアセンターの協力を得て、下安家や野田中学校などの仮説住宅を回る予定だったので、昼食後ボランティアセンターを訪れた。そこで、ボランティアセンターの方から大事な話があると言われ、市民の成田さんを誘ってお話を伺った。話の内容は、住民からのニーズが無くなりつつあるので、来週からのボランティア受付は休止したいとのことだった。突然の宣告で、どのように対応すればいいのか分からず茫然とした。成田さんと相談して、まずは9月に募集している分に関しては、休止の知らせを出すしかない判断した。学生事務局、教員事務局、弘前市ボランティア支援センターなどに報告し、休止の知らせをお願いした。



桜庭さん宅の清掃作業



桜庭さんと一緒に

その後、チーム北リアスの渥美先生に連絡し、今後の活動に関して話し合いたいとお願
いした。2時半頃から渥美先生と成田さんそして私で今後の活動に関して話し合った。話
し合いの中で、まだまだ支援が必要であることや、今後はボランティアセンターの指示で
動くのではなく、こちらから積極的に提案して行かなければならないこと、そしてチーム
北リアスと、より強く連携して活動を行うことなどが確認された。

少し小雨が降り始める中で、この日も無事に作業を終え、野田村を後にした。帰りのバ
スの中ではアンケートと恒例の感想の発表が行われた。感想の中には、今回が最後の活動
になることへの寂しさや今までの活動に対する感謝の気持ちが多かった。いつかは終わり
が来るものだと思っけていても、突然休止を宣言されると受け入れかたい心情が良く表れて
いた。市民からは、これでおれの出番が終わったんだと寂しく話していた人もいた。また、
これは終わりではなく、新たなステージの始まりだという前向きな発言もあり、さびしい
中にも新たなステージへの不安と希望が入り混じった複雑な雰囲気となった。

なかなか自分の気持ちを抑えきれず、黙って耐えていたが、最後にマイクを握った。

まずは、22回、延べ730名以上が活動した今回の活動で、けが人を一人も出さず、無事
に終了したことに対して、市民、学生、教員、事務局、市の関係者の皆さんに感謝申しあ
げます。ありがとうございました。また、今まで我々を快く受け入れてくださった野田村
の皆さん、野田村災害復興ボランティアセンターの皆さんに心から感謝いたします。そし
て、ガレキ撤去に関しては最後まで任務を全うできたことを誇りに思います。今後は、皆
さんの知恵をお借りして、支援活動ではなく交流活動として、一日も早く野田村に行ける
ように準備を進めたいと思います。今後、ますます市民の皆さん、学生諸君の協力が必要
です。より一層のご協力をお願いいたします。

(担当 李永俊)